

東日本大震災災害活動報告

福島県富岡町消防団 団長 安藤 治



平成22年度中、私は消防団を対象とした地震津波災害に関する研修に2回参加した。(静岡県防災センター等・宮城県気仙沼消防本部等)

この時、研修で見聞きしてきたことと同様なことが半年後に自分たちの地域で起こるとは、誰一人として想像できなかったであろう。しかしながら、3月11日午後2時46分に現実のものとなった。

震災直後、町内至るところに生じた亀裂や陥没により道路網は寸断され、水道・電気のライフラインも止まり、通信手段すら失った。その様な中、消防団は約30分後に到達すると予想された津波に備え、全団出動をかけ警戒・避難誘導を行ったが、混乱から立て直す間もなく大津波が町を襲い、家や車を破壊しながら飲み込んでいった。その中には、人もいた。津波が運んだ瓦礫や恐怖は、救出に向かう我々の行く手を阻んだ。無念さと申し訳なさが団員の心を責めた。

さらに追い討ちをかけるように、東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故が発生した。原子力発電所の「安全神話」を信じていた者にとっては裏切られた思いとなった。

また、原発の「安全神話」はその後の事故対策にも影響を与えた様に思う。「安全神話」の上に立った東京電力(株)の企業体質も事故後の対応にも大きな影を落としているようにも思える。

一方住民は、プライバシーの無い避難所生活に身も心も疲れ果てている。

そして、未だ将来の見当も示されない状況の中、先々のことを考えることが出来ず、思考停止状態で暗い日々を送っている。

今回、活動状況報告の提出依頼を受けたが、暗い気持ちで筆が進まないでいる。よって、これまでの活動の記録を時系列的に控えたものを報告としたい。

3月11日(金)

14時46分 地震発生

15時00分 富岡町災害対策本部設置・消防団幹部召集



海岸沿いの屯所に配備されていた可搬ポンプ積載車両

- 15時05分 消防団全団出動
- 15時30分 大津波到達
- 16時19分 各分団より地域の現状報告を受ける
- 16時30分 ため池決壊を警戒し一部地区に避難指示
- 18時40分 婦人消防隊へ炊き出し要請(消防団もこれに加わる)
- 20時04分 地震・津波による町内避難所への避難者総数2,000～2,500人と報告入る
- 22時35分 福島第一・第二原発の状況により防災無線にて10km圏内屋内退避命令
- 22時47分 再度防災無線にて広報実施

3月12日(土)

- 5時45分 福島第一原発から10km圏内立入禁止
- 6時16分 町内各避難所から川内村、都路村へ



3月11日深夜 電気水道が無い中炊き出しを行う消防団員



遺体捜索を行っての消防署員

避難開始

- 6時30分 消防団総員を災害対策本部に招集し、町職員と共に担当地区を指定
- 6時45分 避難場所を川内村とする
- 7時10分 各分団による担当地区での避難広報活動の実施
- 8時16分 改めて、避難場所を川内村とする
- 8時59分 東京電力(株)、国の指示によりペントする
- 14時36分 避難指示
- 15時36分 福島第一原子力発電所で水素爆発
- 17時30分頃 町民全員避難の報告を受け、町災害対策本部も川内村へ移動

3月16日～

川内村から郡山市にあるビッグパレットふくしまへ避難。

消防団は避難所の警備、物資の搬送等を行ないながら現在に至る。

今回の震災及び原子力災害を通し消防団活動を振り返った時、改善点は多々あったと思う。そのひとつに挙げられるのは、消防団として緊急で未経験な災害に対応するための知識の蓄積が足りなかった事により、一組織で解決出来るもの、出来



津波に飲まれた富岡駅（写真左側より津波襲来）



3月16日 川内村よりビッグパレットに避難するのに合わせて物資を積み込む消防団員

ないものの区別が出来ていなかった点。これは組織運営者として反省をしている。今後は今回の反省点を生かし運営にあたりたい。

しかし、改善点が多いながらも、困難に直面した場合においても積極的に活動している若い団員の発想力の高さや広がりを見出したとき、将来への光を見つけた思いをしている。

富岡町消防団は、これまでの避難所支援活動から、郡山市・三春町・大玉村の仮設住宅へ移動された町民への防災対応に移ろうとしている。

先日は、三春町、葛尾村、富岡町、3町村の団長、副団長、担当課長、係の合同会議を開いた。また、大玉村との会議も予定されている。郡山市消防団とは地区隊の団員との交流も進んでいる。

我々を動かしているのは消防人としての使命感と応援や声をかけてくださる町民の皆さん、そして活動を支えていただいている町当局のご尽力が大であります。今は、避難所生活を一日でも早く終え、町へ戻り、団員そろって復興の礎としてお手伝いできることを願っています。

終わりに、今回の災害で避難所を提供していただいた行政の皆様、慰安や炊き出しに来てくださいましたボランティアの皆様、そのほか様々な温かいご支援をいただいた全国の皆様に、誌上をお借りしまして心から御礼申し上げます。



富岡町駅前（写真奥より奥より津波襲来）